



佐藤 憲一さん (83)
ヨシノさん (79)
東和町・米川3区
1962(昭和37)年11月入籍

いつまでも元気に孫の追っ掛けを

二人のなれ初めは
【憲一】出合いは青年会の
フォークダンスパーティー
だったね。
★お互いの第一印象は
【憲二】おどなしそうだなって
思ったよ。
【ヨシノ】真面目そうな人だ
なって思ったね。
★結婚当時の思い出は
【憲二】勤めが忙しくて新婚旅
行もなかった。退職前にハワ
イ旅行したのはいい思い出だ
な。北海道も良かったね。
【ヨシノ】農家仕事は、初めて
のことだからで大変だったね。
農作業しながらの子育ては大
変だって聞いたけど苦には思
わなかったね。
★お互いの性格は
【ヨシノ】とにかく真面目。自
分の意見を貫く人。
【憲二】おどなししいよ。今でも
きかなくないね。
★夫婦円満のコツは
【憲二】家の中の仕事は妻に任
せることだね。
【ヨシノ】信頼することかな。
意見が違ったこともあったけ
ど、けんかはずなりましたよ。
★現在の楽しみは
【二人】近くに住んでいる2人
の孫が、学校の帰りに寄って
くれるのがうれしいね。2人
とも野球をやっている、応援
に行くのが楽しみだね。

One's Home

ふるさとへの思い

Monthly Hot Communication

「ふるさとへ」

石越を離れてはや50年にな
ろうとしています。当時はま
だ鈍行も急行列車もあって、
帰省の際は夜行列車をよく利
用しました。新幹線が走り、在
来線の本数が少なくなるとか
ら、帰省の際の玄関口はやは
り石越駅なんだという思い
があった、仙台駅で在来線に
乗り換えたものでした。

私が小さい時の遊びのテリ
トリーは、地区内のさらに狭
い範囲でした。小学2年まで
は分校の複式学級で学び、3
年から本校に通いましたが、
それでもテリトリーは変わり
ませんでした。冬はすぐそば
の堤防でそり滑り、夏は近く
の川や迫川での水泳。そのと
きには何人かの大人たちが監
視についていたように思いま
す。今こうして幼少年期を振
り返ってあらためて思うこと
は、「あれしちやだめ」「これは
いけない」などと言われたこ
とがないような気がします。
実際はあったはずでしょうが
子どもに構ってられない余
裕のなさなのか、おかげで比
較的自由でした。現在は環境
が大きく変わり、生活は便利
になりました。子どもたちの
環境はというと、制約だらけ
で少しかわいそうなくらいで
す。もっとおおらかにと思う
のですが、もろもろの環境を
考えるとなかなか難しいとこ
ろですね。

千葉 正志さん(67)

東京いしこし会幹事
石越町(第十四)出身



「ふるさと」田舎」と思われ
がちですが、決してそんな事
はなく、自分自身の心のあり
やうの原点が「ふるさと」な
のだと私は考えます。生まれ
育った土地の状況や環境は
日々変化しますが、心の内に
培ったものは、未来永劫変わ
らないものだとは確信して
います。これから社会へと巣
立つ人たちが、その後に関わ
うであろう満足感、挫折感、そ
のときに心の内に占める感情
の中で、安らぐ事ができる空
間を誰もが持っているはずで
す。そこにこそ、その人のふる
さとがあるのではないでしょ
うか。

おらほの道の駅

道の駅米山
「ふる里センターY・Y」



レストランは午前11時から食事ができます。テークアウトは
焼き豚丼、油麩丼、たっぷり野菜カレーの3メニューを用意。

今月は、道の駅米山「ふる里
センターY・Y」の山崎準一
郎駅長にお話を伺いました。
★おすすめ商品などを教えて
ください
レストランの人気メニュー
のスープカレーをリニューアル
しました。チキン、ポーク、
ハンバーグと人気の具材はそ
のまま、スープに使用する
トマトを増量しました。爽や
かな酸味が食欲をそそりま
す。特におすすめなのがポー
クです。艶のある新鮮な野菜
の奥に入っている角切り肉
は、石越醸造の酒粕や脂肪を
まろやかにする玄米などこ



スープカレーは、辛さが1から30倍まで
選べます。リピーターが多い人気メニュー。

わりの飼料で育った市内のブ
ランド豚「喜醇純米豚」を使
用しており、柔らかく濃厚な
甘さがスープの辛さとよく
合います。3月から丼ものの
テークアウトを始めましたの
で、こちらもおすすめです。



登米市産の米粉を使用した
こしが強く伸びにくい米粉
めんも人気商品。

★これから入荷する人気商品
を教えてください
これからの時期は、ホウレ
ンソウなどの葉物がおすす
めです。また、新米の入荷が始
まる季節になりますので、ぜひ
ご賞味ください。
【問い合わせ】道の駅米山「ふ
る里センターY・Y」
☎0220(55)2747

短歌
まちの文芸

作品募集!
●11月号は俳句川柳です。住所・氏名・電話
番号を記入し、9月30日(水)まで応募
ください。作品氏名には全てふりがなを振
ってください。
●応募者多数の場合選考して掲載します。

ウイルスで和が冷へて心泣き
五輪来るまで凍として待つ
コロナ禍や終息祈り仰ぐ夜空
キラリ一瞬一筋の流星
ほととぎす朝のしぢまを鳴きかわす
初盆迎える亡友の声かも
庭に映ゆ半夏すつくと立ち上り
手品の如く咲き変わる花
コロナとて過し月日も矢の如し
令和二年も秋の風ふく

星 慶堅 (迫)
丸山 米子 (東和)
熊谷たかよ (中田)
熊谷夕へ子 (中田)
佐々木栄一 (中田)

老後とは余生にあらず新しき
人生あると朝刊ひらく
軒先に幸せ運ぶ渡たり鳥
親の愛情分けへだてなく
妻逝きて虚ろなる日を送りし折
幼曾孫に心むる
重たげな稲穂の上で懸命に
身ふるわせ鳥追いテープ
夏エビネ猛暑にめげず花咲きて
コロナ自粛を癒さるるなり

千葉 源治 (中田)
齋藤フキ子 (石越)
佐瀬 徳 (南方)
三上久美子 (南方)
阿部 洋子 (津山)